

# 大漁 ふらいき

平成19年3月

第13号

■発行  
(社)岩手県栽培漁業協会

社団法人 岩手県栽培漁業協会だより



## アワビ親貝

平成19年度の誘発に用いる加温中の親貝アワビです。殻長は9~10cm。  
1個々に番号をつけて飼育管理しています。

## 『ふらいき』 第13号 目次

- ・アワビに加えナマコも「俵物三品」に！ 専務理事 長洞 幸夫 .....2
- ・種苗生産実績報告 アワビ、ウニ、イワガキ、ヒラメ、マツカワ、アユ .....3~4
- ・研究室 アワビ配合飼料比較試験 .....5~6
- ・海上あんでな 大船渡・種市の水温 .....7
- ・酒のさかな ホタテガイ .....8

本 所 〒022-0001 大船渡市末崎町字鶴巻120 TEL 0192-29-2135 FAX 0192-29-3099  
E-mail saibai@it-saibai.or.jp

種市事業所 〒028-7915 九戸郡洋野町種市20-177 TEL 0194-65-4750 FAX 0194-65-4706  
E-mail taneichi@it-saibai.or.jp

## アワビに加えナマコも「俵物三品」に！

専務理事 長 洞 幸 夫

最近の漁業をとりまく情勢は、資源減少による漁獲量の減少や燃油高騰、輸入水産物の増大による競合や産地価格の低迷、漁業従事者の高齢化、自然災害等々数えあげればキリがないほど漁業関係者にとっては、極めて厳しい試練を余儀なくされ、漁村の地域活力が低下しているのが現状であります。

このような諸情勢の中において、当協会も例外ではなく、とりわけ種苗生産に欠かせない重油の高騰やウニ種苗の需要減少、アワビ大型種苗の需要増によるコストの増大等により、経営的に厳しい状況に置かれ、さらなる経営改革が求められております。

県は平成15年10月に「岩手県出資等法人改革推進プラン」を定め、当協会でもこれに基づき経営改革改善を推進し、協会の健全経営に鋭意努力をしているところであります。経営改革改善に取り組む主な事項は（1）経営の安定化を図る引当資産の充実（2）県からの自立を目指す借入金の縮減（3）スケールメリットを生かした種苗コストの削減と健苗生産（4）アワビ種苗のサイズ別単価の改定（5）会員のニーズに応える新たな種苗生産対象種の技術開発等が挙げられます。会員皆様の温かいご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

さて、当協会がこれまでの事業に加え、新たな体制で取り組む事業についてご説明致します。

世界の一大消費国である中国では、経済発展によりナマコ需要が増大し、近年ナマコが世界的に脚光を浴びるようになりました。このため本県沿岸各地では中国市場を視野に天然ナマコ増産への期待が高まり、当協会では県支援により平成19年度から稚ナマコ10万個種苗生産を手始めに、本格的に取り組む計画であります。

ナマコ需要は世界各地でも敏感に反応し、各国が天然ナマコ増産に積極的に取り組むようになっております。しかし、残念なことにナマコ資源は、無秩序に過大な漁獲圧力によって世界的に枯渇や減少の危機に陥っているのが現状です。

2002年11月にチリで開催された第12回ワシントン条約締約国会議では、ナマコ類を輸出入規制の対象品にするよう提案されております。

提案は否決されましたが、このこともあって各国のナマコ単価はにわかに高騰しております。

岩手県沿岸では中国で珍重され需要の高い、体軀に高い突起を有すナマコを産することから、この特産ナマコを武器に当協会が種苗生産を担い、天然ナマコ資源を増大させることにより、安定した一大ナマコ産業の構築が期待されます。

岩手県のナマコがアワビに加えて、江戸時代に栄えた長崎俵物を代表する「俵物三品」として復活することを願うばかりです。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 種苗生産実績報告

### アワビ



平成18年のアワビ種苗生産は、出荷時期に海況不良が続き、稚貝出荷が例年より遅く終了しました。稚貝の供給実績は、殻長で33.1mm、数量で246万個となり、昨年より0.9mm小さくなりましたが、供給数では9.7万個増加となりました。30mm以上の大型貝の供給数は、198万個となり供給数の80.3%を占め、出荷重量は12トンとなりました。

平成18年度 アワビ種苗供給実績

地区名	会員数	供給数(個)	平均殻長(mm)	賦課金(千円)
久慈	7	1,210,350	34.5	83,322
宮古	8	828,400	31.8	52,561
釜石	2	341,100	30.4	20,714
大船渡	1	65,000	35.0	4,539
県外	1	21,890	45.6	2,410
合計	19	2,466,740	33.1	163,546

### ウニ



ウニ種苗の供給は、キタムラサキウニおよびエゾバフンウニ合わせて前年度並みの305.6万個となりました。冬場から春先の低水温による影響か、出荷サイズは例年より若干小さめとなりました。

平成18年度 キタムラサキウニ種苗供給実績

地区名	会員数	供給数(個)	平均殻径(mm)	賦課金(千円)
久慈	7	2,811,000	16.8	54,419
宮古	4	35,000	24.3	981
釜石	2	25,000	15.9	459
大船渡	1	22,000	16.6	422
合計	14	2,893,000	16.8	56,281

平成18年度 エゾバフンウニ種苗供給実績

地区名	会員数	供給数(個)	平均殻径(mm)	賦課金(千円)
久慈	3	125,000	18.8	2,713
釜石	2	38,000	15.3	672
合計	5	163,000	18.0	3,385



### イワガキ

イワガキ種苗は、県内外あわせてほぼ前年度並みの3,174連（95,200枚）を出荷しました。

平成18年度 イワガキ種苗地区別供給実績

地区名	会員数	連数	枚数	賦課金(円)
宮古	5	1,270	38,100	4,038
釜石	1	25	750	79
大船渡	3	1,523	45,690	5,190
県外	9	356	10,680	1,289
合計	18	3,174	95,220	10,596

### ヒラメ



採卵は、4月下旬から5月中旬に3回（浮上卵468万粒、ふ化数389万尾）行い、ふ化仔魚320万尾で生産を開始しました。飼育期間の種苗生産期（仔魚期・稚魚期）、中間育成期とも順調に推移し、放流数は116万尾（歩留まり36.3%）で計画を上回りました。

平成18年度 ヒラメ種苗生産実績

区分	收容数(千尾)	取り上げ数(千尾)	平均全長(mm)	生残率(%)
種苗生産	3,200	1,936	27.1	60.5
中間育成	1,936	1,162	97.1	60.0

### マツカワ



採卵は1月中旬から2月上旬に6回（浮上卵1,382万粒、ふ化数524万尾）行い、ふ化仔魚数合計88万尾で生産を開始しました。飼育期間の種苗生産期（仔魚期・稚魚期）、中間育成期とも順調に推移し、放流数は13.9万尾（歩留まり36.3%）で計画を上回りました。

平成18年度 マツカワ種苗生産実績

区分	收容数(千尾)	取り上げ数(千尾)	平均全長(mm)	生残率(%)
種苗生産	880	296.6	34.1	33.7
中間育成	296.6	234.1	35.7~144.1	78.9

### アユ



種卵は、海産系の県内養成親魚を主体に採卵したほか、県外卵も移入し種苗生産を開始しました。ふ化仔魚985万尾で生産を開始し、飼育は概ね順調で種苗は12月中旬から2月末まで、出荷しました。

平成18年度 アユ種苗生産実績

区分	收容数(千尾)	取上げ数(千尾)	平均体重(g)	生残率(%)
種苗生産	9,853	7,371	0.72	74.8
出荷重量	県内(kg)	県外(kg)	合計(kg)	
	2,443	930	3,373	

## 研究室

## アワビ配合飼料比較試験

## 【目的】

- ・市販されている配合飼料、A社（配合1、配合2）及び、B社（配合3）を用いてアワビ稚貝を飼育し、成長及び肥満度比較試験を実施し、今後の飼料選択等種苗生産事業の参考にする。

## 【方法】

- ・飼育試験は平成17年10月7日から18年1月20日の106日間で2日/1回/5gの投餌（摂餌率100%）で行った。
- ・使用した稚貝は、17年4月1日に採苗した殻長約15mmのものを選別して各飼育水槽に200個ずつ収容した。



- ・飼育水槽は容量100%の容器にトリカルネット製の籠（底面積1,800cm<sup>2</sup>、深18cm、角目、目合8×7mm）を設置して行った。シェルターは、黒色塩化ビニール製の山型（6山、面積3,024cm<sup>2</sup>）のものを使用した。
- ・飼育用水は、濾過海水を使用し、水槽中の海水酸素飽和度が90%以上に保てるよう給水した。
- ・飼育水槽の海水攪拌のため、エアーストーンによる通気を行った。

**【結果】**

今回の比較試験結果から、殻長の伸長量が優れていたのは、A社（配合1）であり、体重の増加量では、A社（配合2）であった。B社（配合3）は、殻長、体重ともにA社より低い値であった。

以上の結果から、今後はA社（配合1）及びA社（配合2）の飼料を使い分けした、給餌方法に改善していくこととする。

**アワビ稚貝の比較試験結果（飼育期間106日）**

試験区	試験開始時		試験終了時		増加量	
	殻長 (mm)	体重 (g)	殻長 (mm)	体重 (g)	殻長 (mm)	体重 (g)
A社 配合1	15.02	0.474	20.55	1.128	5.53	0.654
A社 配合2	14.81	0.434	20.25	1.092	5.44	0.658
B社 配合3	14.99	0.455	20.3	1.069	5.31	0.614

**(つづき)**

試験区	日間生長量 ( $\mu\text{m/day}$ )	増重量 (%)	餌料転換 効率(%)
A社 配合1	52.2	138.0	100
A社 配合2	51.3	151.6	100
B社 配合3	50.1	134.9	100

**【今後の課題】**

今回の配合飼料比較試験は、10月～1月の水温下降期（18.9℃～9.5℃）のため投餌を2日/1回、摂餌率100%で行ったので、飼料の保形性等の観察ができなかった。アワビ種苗生産では、5月～9月の水温上昇期（10.0℃～20.0℃）には、7日/3回（月、水、金）の投餌で、残餌回収は1週間/2回（月、金）行われている。次回の比較試験は、条件を同一とした水温上昇期での実施を計画中である。

## 海上あんでな

## 春先は低め、秋～冬は高め

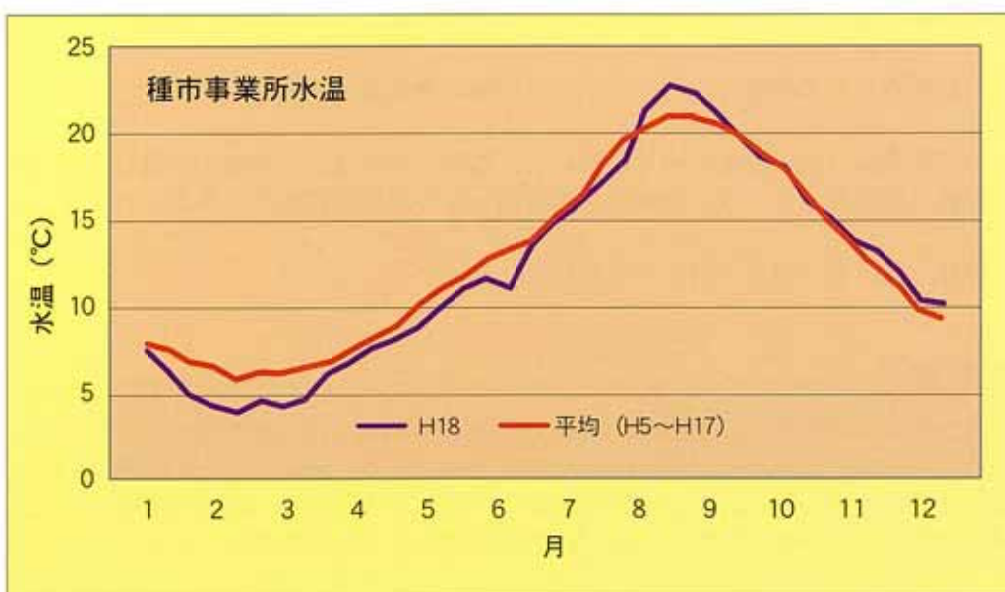
## 栽培漁業協会（大船渡）水温

平成18年の水温は、10ヵ年平均水温と比較して2月～7月上旬にかけて平均より2～3℃程低く、また、9月中旬からは平均より2℃ほど高く推移しました。



## 種市事業所水温

平成18年の水温は、10ヵ年平均水温と比較して1月～8月上旬にかけて平均より3℃ほど下回りました。その後、約1ヶ月の期間は平均水温を上回りましたが、10月以降は平均どおり推移しました。





# 酒のさかな

三陸の肴について紹介します。チョット一杯のつもりが！



## ● ホタテガイ

**呼び名：**ホタテガイ

**特徴：**殻径は20cmほどになる大きな二枚貝である。貝殻はふくらみが強い殻と弱い殻とが合わさっているが、ふくらみが強い方が右殻である。殻の中央には大きな閉殻筋がある。また、外套膜（ヒモ）の周囲には小さな眼点（目）があり、明るさを感じることができる。外敵に襲われると閉殻筋で力強く殻を開閉させて海水を吹き出し、泳いで逃げることができる。名前の由来は、開いた殻が帆船のように見えるところからきている。

**分布：**東北地方から北海道、オホーツク海。砂地の浅海底に生息。

**獲り方：**垂下式養殖（北海道噴火湾・以南）と、海底に地まきした物を小型底びき網（貝桁網）で漁獲（北海道オホーツク海側・道東方面）する方法が代表的である。

**食べ方：**刺身、煮込み、バター焼き、干貝など。

### 編集後記

今年度は春先から初夏にかけての冷水塊停滞、燃油の高騰、大型低気圧の接近等、当協会ばかりではなく水産業全体が大きな被害を受けた年でありました。その後、秋鮭の漁獲上昇やアワビの好調な水揚げなど、久しぶりに明るい材料が出ております。我ら一同は技術開発、自己啓発に躍進する覚悟でございますので、今後ともご支援の程をよろしく願います。